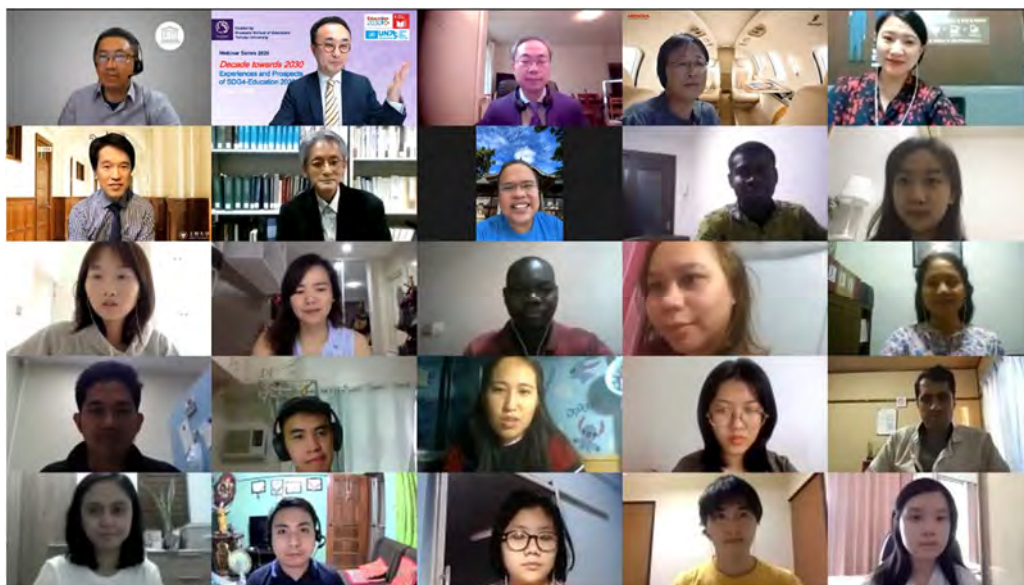


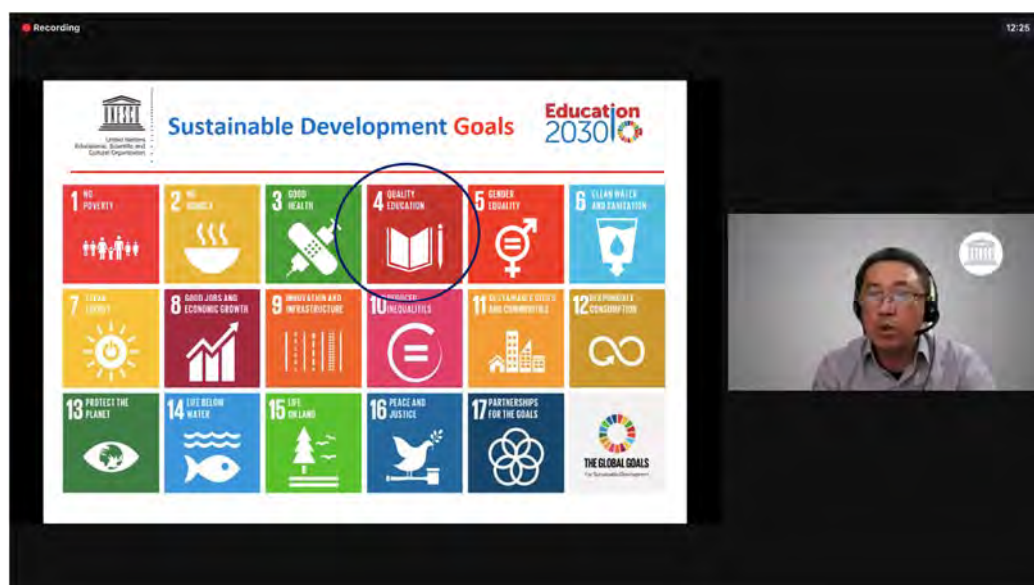
第 75 回国連記念日を迎えて、アジア太平洋地域における SDG4-教育 2030 に関する国際ウェビナーが開催されました

2020 年 10 月 24 日、東北大学教育学研究科では、第 75 回国連記念日を記念して、「アジア・太平洋地域における SDG4-Education 2030 の経験と展望」をテーマにした国際ウェビナーを開催しました。

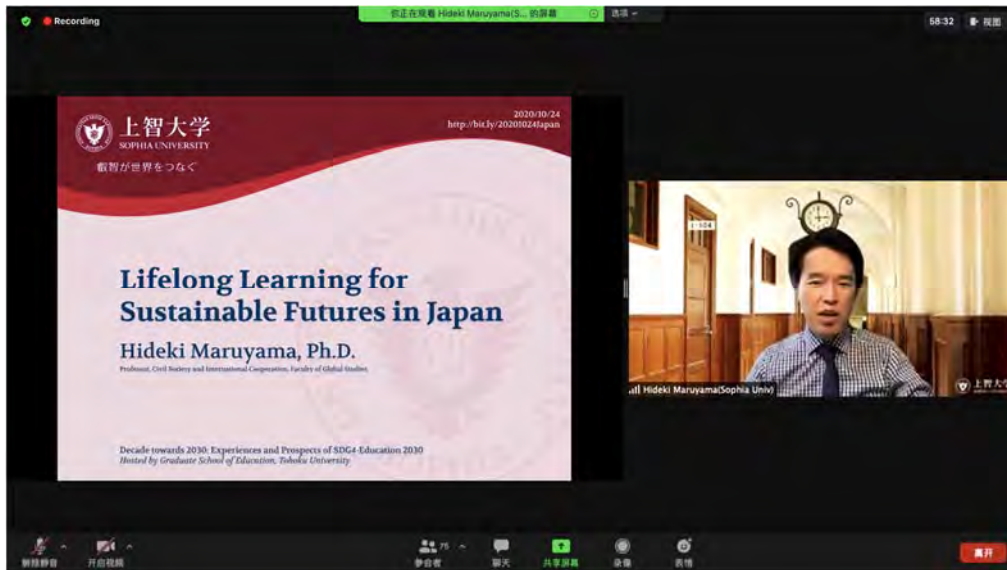
冒頭の挨拶では、教育学研究科長の八鍬友広氏が、東北大学大学院教育学研究科での国際交流活動を継続的に支援している参加者の皆さんに感謝の意を表しました。また、質の高い教育のために誰一人として置き去りにしないという世界的なコミットメントである SDG4 をさらに推進するためには、より一層の連携が必要であると指摘されました。



ウェビナーは、ユネスコバンコク事務所プログラムスペシャリストの Nyi Nyi Thaung 氏の基調講演で始まりまし。Thaung 氏は、SDG4 の開発プロセスを振り返り、アジア太平洋地域における SDG4 の進捗状況を紹介しました。また、2030 年までに SDG4 を達成するための新たな課題として、この地域における COVID-19 のパンデミックが挙げられました。Thaung 氏は、大学やその他のステークホルダーと協力して、すべての人のために教育のすべてのレベルにおいて公平性、包摂性、質を保証するための代替手段を模索することの重要性を述べました。



基調講演に続いて、上智大学グローバル学部の丸山英樹氏が、高齢化社会や COVID-19 パンデミックなどの社会問題に直面しながら SDG4 を達成してきた日本の経験を紹介しました。また、日本の持続可能な開発目標を達成するための生涯学習の役割についても強調されました。



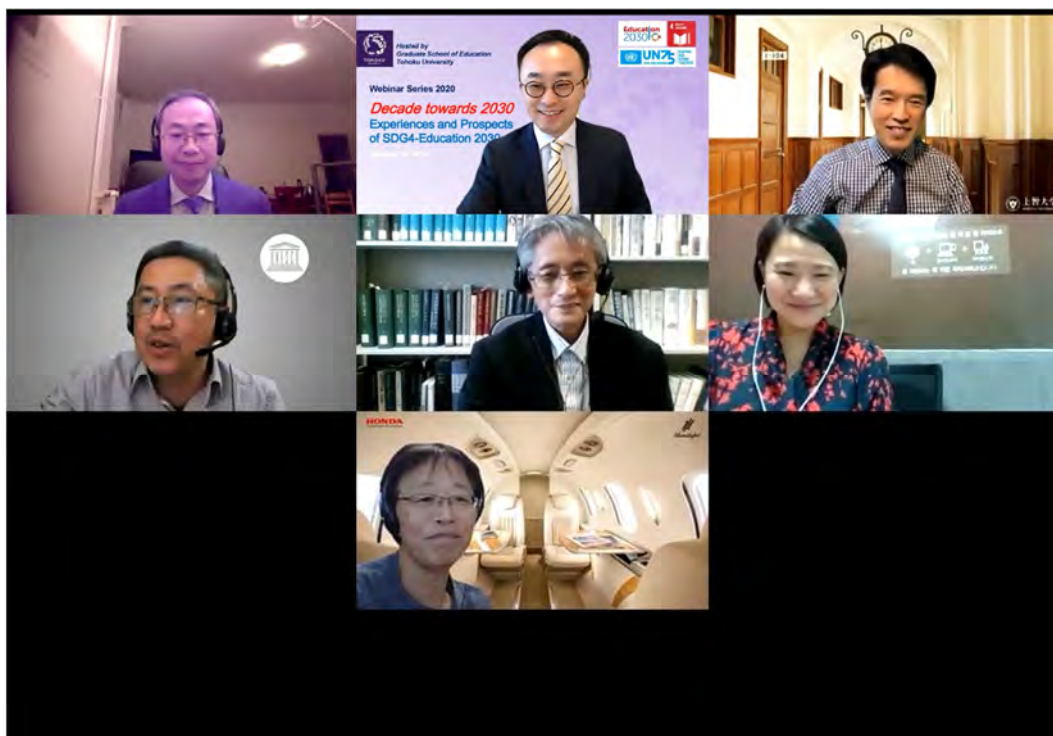
北京師範大学教育学部の Zhao Yuchi 氏は、中国における SDG4 の進捗状況や、ユネスコを通じた中国の SDG4 への支援について紹介しました。趙氏は発表の中で、中国がどのように SDGs を国家開発計画にローカライズしているかを語りました。また、中国が 2030 年までに SDG4 を達成するためには、農村教育の発展が重要な課題であると指摘しました。最後に趙氏は、すべての人に質の高い教育を提供するための中国とユネスコの協力について説明しました。



釜山外国語大学国際開発協力専攻の Hong Suk Moon 氏は、韓国の教育と SDG4 の現状と課題について発表した。発表では、韓国がグローバル開発アジェンダと自国の教育・開発アジェンダをどのように結びつけているかを紹介しました。その後、すべての人に質の高い公平な教育を提供するための韓国の利点と課題をまとめました。



ディスカッションセッションでは、教育と学習を通じた SDGs の推進における大学の役割についての意見交換が行われました。また、2030 年に向けて SDGs4 をさらに推進するために、地域の大学と他のステークホルダーとのより緊密な協力関係を構築していくことがコンセンサスとなっていることが示されました。



最後に教育学研究科の野口和人副研究科長が、すべての人のための教育における包摂性を強調しました。また、東北大学大学院教育学研究科が主催する 2020 年年度のウェビナーへの継続的な参加を招へいしました。

このウェビナーでの発表と議論は、SDG4-Education 2030 に向けてアジア太平洋地域で共有された多くの進展と課題を示しています。次の 10 年に向けて、私たちは、すべての人のためのインクルーシブで質の高い教育を実現するために、よりポジティブな変化と変革のために、より緊密に協力していく必要があります。